

## 不可解な対応が続く向日市の障がい者への タクシーチケットの交付拒否

この紙上でも以前お伝えした向日市が障がい者に支給されるタクシーチケットを更新時に支給しなかった問題。その後の調べで14名の方が交付されなかったことが分かりました。

きょうと福祉倶楽部も参加する乙訓社会保障推進協議会と京都社会保障推進協議会が向日市と設けた懇談会でもこの問題を取り上げました。

そこでも向日市はその経過の説明を事実上拒否しています。

あきれたのは当方からの「交付しなかった14名の方の歩行機能は確認したのか」の問いに向日市の担当は「個人情報」と支離滅裂な回答でかわしました。

歩けない方がどれだけいるのかは個人が特定出来る情報ではありません。ですので、当然個人情報として保護すべき類いの問題ではありません。それをこのような詭弁を労してまで説明出来ない行政処分に道理があるのでしょうか？

懇談会ではその後向日市の担当は沈黙するだけでした。

また、この間の調査で分かったのは向日市はこの交付事業にかかる実施要領は全く改定していないことです。つまり事業実施のための根拠は変わっていないのに、これまで交付されていた方のタクシーチケットを交付しなかったのですからその根拠を明確にすることは行政には説明する義務があるはずで

す。これまで行われていた障がい者への交付が根拠も示されず14名の方から奪った重大な判断変更になぜ回答ができないのか不可解極まります。前例を変更し、不交付という行政処分が行われた行政判断の思考過程を市民に明らかにしないという姿勢は主権者の存在を蹂躪する行為だと考えます。

## ある病院での出来事から学ぶオムツの使い方

シズタさんは前立腺の癌がある高齢者でした。

シズタさんが体調を崩したときある病院に入院しました。彼は尿が垂れ流し状態でした。常に尿道からおしっこが流れ出るのです。

で、その病院はその状態を「改善」しようと彼の陰部に多くのオムツを巻き付けました。

みなさんはその対応をどう思われますか？

正解は「×」です。

オムツをたくさん重ねることで肌とオムツの間に隙間が生じます。隙間ができれば当然尿が漏れます。で、さらに漏れる。だからその病院はさらにオムツを重ねます。そしてさらに漏れてしまいました。

シズタさんの入院費はどんどんかかるようになって問題は解決しない。最悪な状態でした。

ではこのような事例で問題を解決するには何が必要だったのでしょうか？

私たちならオムツの種類を検討する事から始めます。

たとえばユニチャームメンリック社の「テーナ」というオムツを試してみます。

テーナは「個別ケア」を大切にしています。

その人の体型、その人の尿量、その人の困りごとから様々なテーナ商品の組み合わせで最適解を導き出すのです。

福祉倶楽部のスタッフはこの製品群から「マキシ」の利用を試みます。

この商品是一片のバットの尿の吸収量が1200CC。一晩交換しないで朝まで洩れること無くすごせる方が多いからです。

福祉用具同様にオムツも「その人に合った」機能が求められるのです。

こうやって自宅に帰ったシズタさんはご自宅で静かに生涯を終える事ができました。

個別性って大切ですね。

そして〇〇病院さん、介護にあたる介護職、看護師さんにきちんと排泄ケアを教えて下さいね。テーナのホームページはこちらです。



有限会社 おとくに福祉研究所  
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824  
長岡京市天神4丁目7-12 ハイッ草館101号  
TEL 075-958-2560 FAX 075-957-2808  
E-mail info@fukushi-club.com